

トータルマーケット

19年の動き

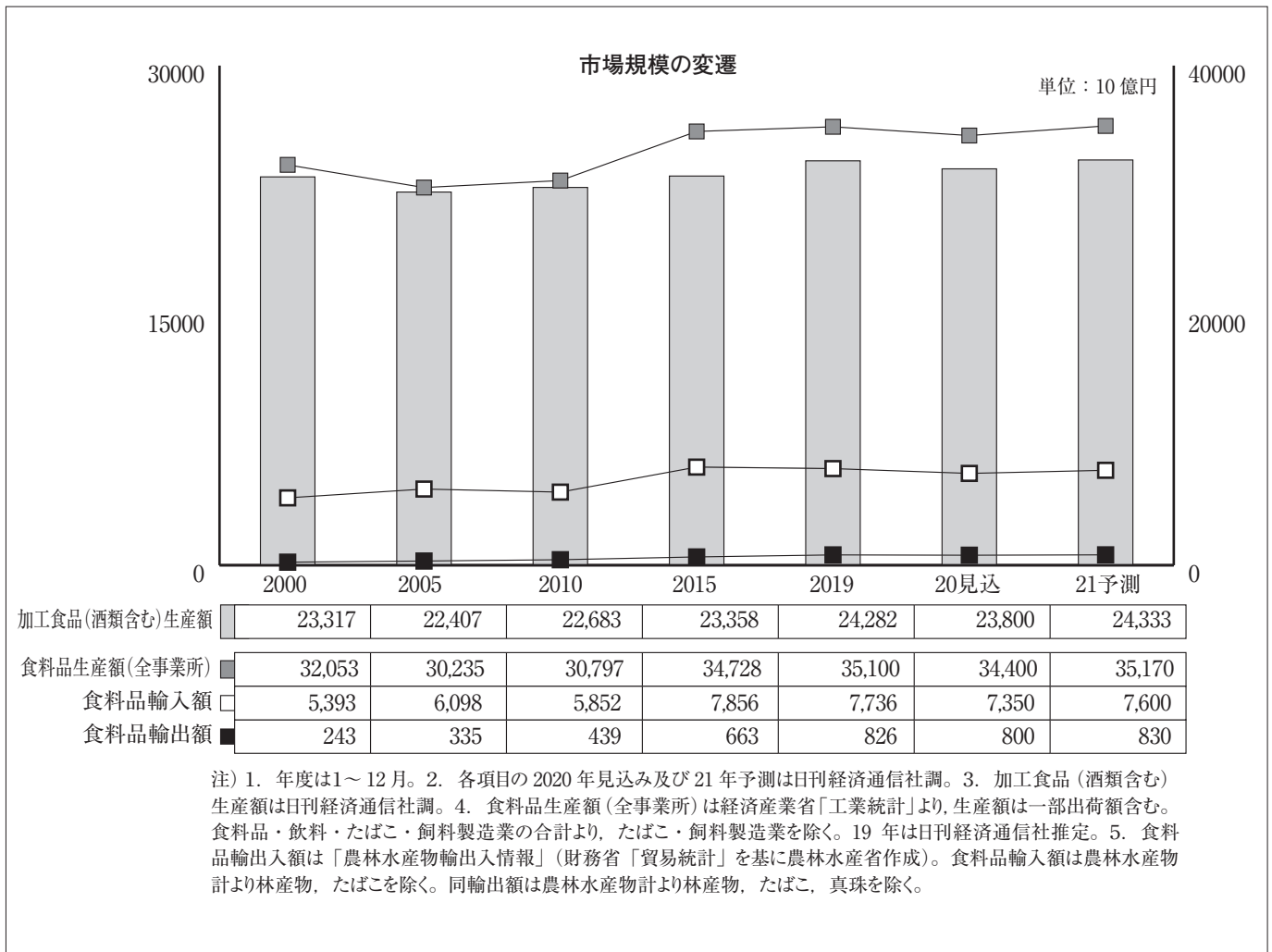
本誌調査による2019年の酒類食品トータルマーケットは、総生産額で24兆2,822億円（前年比0.8%増）だった。前年実績を上回るのは8年連続。人口減・高齢化が加速しているが、人間生活に欠かせない産業だけに、景気にも左右されにくく安定した推移が続いている。近年は数量の伸びが見込みづらい環境下、高付加価値品のウエートを高め、単価アップを図る動きも活発だ。

全17業種のうち、前年実績を上回ったのは酒類、油脂、小麦粉・粉2次加工品、菓子類、レトルト食品、健康食品、その他農産加工品の7業種。プラス基調にあった牛乳・乳製品、冷凍食品などは一服感がみられた。カテゴリーによっては消費増税（19年10月）の影響も少なくない。

業種別の動向をみると、酒類はボリュームの大きいビールが続落したものの、新ジャンルやRTDの台頭でリキュール類、スピリッツ類などは好調、ハイボール商材がけん引したウイスキーも伸長。ワインは微減も安泰した需要。清酒、本格焼酎など和酒はヘビーユーザーの高齢化などを背景にマイナストレンド。焼酎甲類はレモン

ソーワ人気で復調気配をみせた。

牛乳・乳製品は、発酵乳が踊り場を迎えて減少、伸び続けていたチーズは微減、夏場の天候不順でアイスクリームが前年割れとなった。缶詰はマイナスが続く。主力の水産缶詰が減らしているが、サバ缶はブームが一巡後も堅調。清涼飲料は、記録的な冷夏で5年ぶりにマイナス。7月の2ケタ減が響いた。茶系飲料やコーヒー飲料などが伸び悩み。嗜好飲料は若干減少だが、レギュラーコーヒーは業務用が活発でプラス。家庭用のインスタントコーヒーなどマイナス。油脂は、食用油がけん引して増勢。調味料類は、基礎調味料が横ばいから微減だが、しょうゆは高付加価値品が存在感を高め、食酢は健康志向を背景に飲料需要が増加。また、アップトレンドにあったマヨネーズ類（ドレッシング含む）は若干減少、めんつゆ類は冷夏が足かせとなった。食肉加工品は、ハム・ソーセージを中心にほぼ前年水準。小麦粉・粉2次加工品は、主食のパン、めん類を中心に根強い需要を維持。菓子類は、チョコレートとスナック菓子が伸長しプラスを確保。冷凍食品の国内生産は2年連続で減少。その他農産加工品では、納豆、無菌包装米飯などの動きが良い。節約志向・健康志向・簡便志向などを反映している。



20年の動き

本誌調査による2020年の酒類食品トータルマーケットは、23兆8,003億円（2.0%減）、9年ぶりに前年割れすると予想した。最大の要因は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う業務用市場の低迷だ。食品産業そのものは安定した需要に支えられ、内食主体の商品カテゴリーは堅調に推移しているが、外食、観光、レジャーなどの業態が軒並み落ち込んだ。単純に家庭用と業務用の増減を差し引きすることは難しいが、やはりマイナスのインパクトが勝っているのが実情だ。活況を呈していたインバウンド需要が消滅した影響も大きい。東京オリンピック・パラリンピックの延期は、酒類・食品のみならず全産業にとって痛手であろう。

全17業種のうち、牛乳・乳製品、調味料、食肉・食肉加工品、水産練製品、小麦粉・粉2次加工品、レトルト食品、健康食品の7業種が前年実績を上回ると推定した。

業種別の動向をみると、酒類のうちビール類はビールが苦戦を余儀なくされ、好調な新ジャンルでもカバーし切れなかった。厳しい環境にあるが、缶製品は堅調など根強い需要は健在。10月に酒税改正でビールが減税、新ジャンルが増税となったが、この影響も注目を集めるところ。清酒は業務用の低迷が響くも、家庭用主体のパック類は善戦。本格焼酎は数%減と比較的堅調。国産洋酒

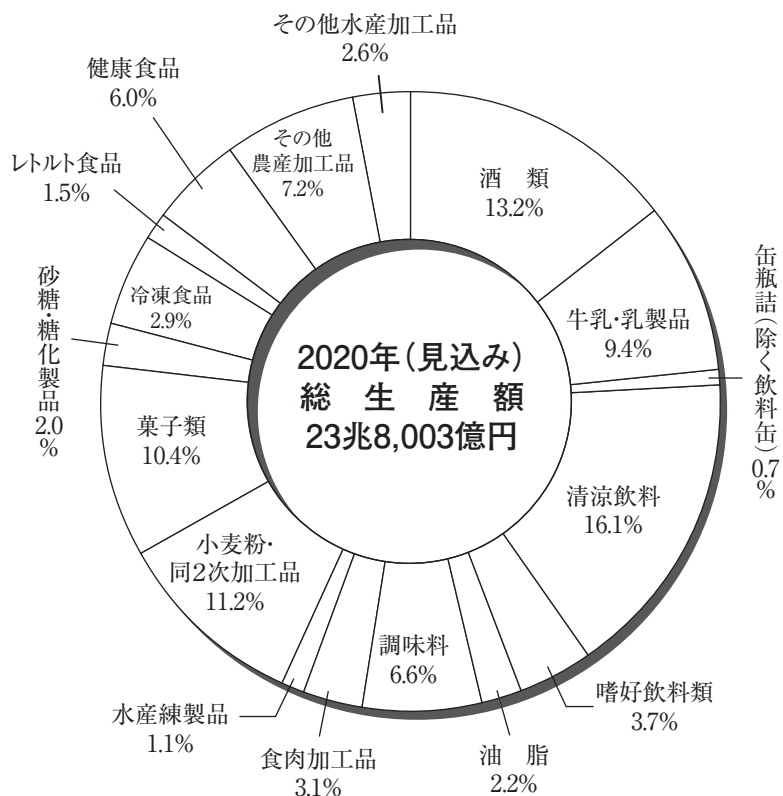
は、新ジャンルやRTDが含まれるリキュール、スピリッツが大きく伸びる。ワインは家庭用需要が追い風でプラスの見込み。

牛乳・乳製品は、内食傾向で発酵乳が復調、チーズは業務用が苦戦も家庭用の伸長でフォロー、アイスクリームは2年連続の冷夏で横ばいを想定。缶詰は、内食化でツナ缶をはじめとする缶詰が旺盛な需要に応じて存在感がアップした。清涼飲料は、業務用ルートの不振がダメージで、さらに冷夏の足かせで苦戦を強いられている。CVS、自販機の販売減少も影響が大きい。嗜好飲料は、家庭用は在宅時間の増加が追い風になったものの、業務用は厳しい情勢。植物油も家庭用、業務用で明暗が分かれた。調味料類は、一般的に業務用の苦戦が響いているが、調理機会の増加で家庭用は伸びた商品群もある。小麦粉・粉2次加工品は、内食主体のパン、めん類が底力を発揮した。菓子類は、大袋商品が好調な一方、新商品の導入遅れや催事商品の先行きなどが懸念材料。冷凍食品は需給バランスが一変。家庭用は需要が増大するも、業務用の回復には時間がかかる見通し。

2020年(見込み)の業種別シェア

単位：100万円

酒類	3,137,920
牛乳・乳製品	2,233,370
缶瓶詰(除飲料缶)	166,571
清涼飲料	3,833,080
嗜好飲料	889,600
油脂	529,444
調味料	1,564,442
食肉加工品	745,000
水産練製品	263,499
小麦粉・粉2次加工品	2,673,160
菓子類	2,470,800
砂糖・糖化製品	467,600
冷凍食品	690,400
レトルト食品	365,190
健康食品	1,430,000
その他農産加工品	1,713,930
その他水産加工品	626,255
合計	23,800,261



- 注) 1. 年度は1～12月（一部4～3月等含む）。
2. 日刊経済通信社調。
3. 缶瓶詰は飲料缶除く生産額。